

VI.VI

# CellAdvisor™

JD746B/JD786B RFアナライザ

## はじめに

CellAdvisorシリーズ JD746/JD786B RFアナライザは携帯電話基地局の設置とメンテナンスに最適なテストツールです。すべてのワイヤレステクノロジー(2G~4G)基地局のフィールド試験に必要なあらゆる機能と能力を備えています。

ワンボタン式標準規格ベースのワイヤレス信号測定機能を備えたこのアナライザを使用することで、あらゆるBTSの適合性試験を実施できます。本製品にはスペクトラム解析やケーブルおよびアンテナ解析、RF/光/パワーメーター、干渉解析、チャンネルスキャナー、RFoCPRI™、信号解析機能などが統合されています。

標準機能は以下の通りです。

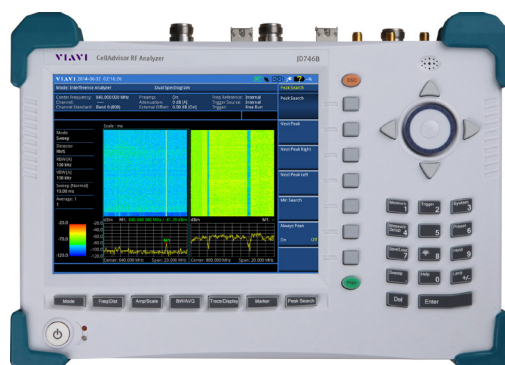
- スペクトラムアナライザ
- ケーブルおよびアンテナアナライザ
- RFパワーメーター

以下のような高度機能もあります。

- 干渉解析
- チャンネルスキャナー
- 2ポート伝送
- CW信号源
- RFoCPRI
- GPSレシーバー
- 内蔵バイアスティ
- 光/パワーメーター
- 合否判定付きファイバー検査(要P5000iマイクロスコープ)\*
- StrataSync™によるクラウド対応\*

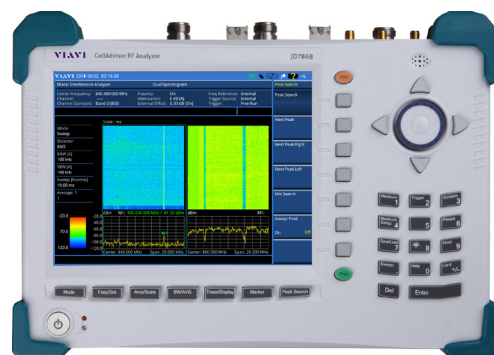
特徴および機能は以下の通りです。

- パッシブ相互変調(PIM)検出
- デュアルスペクトラム
- スペクトラムリプレイ
- デュアルスペクトログラム
- リモートコントロール
- カバレッジマッピング
- Bluetooth®によるリモートワイヤレス接続



JD746B RFアナライザ

スペクトラムアナライザ	100kHz~4GHz
ケーブルおよびアンテナアナライザ	5MHz~4GHz
RFパワーメーター	10MHz~4GHz



JD786B RFアナライザ

スペクトラムアナライザ	9kHz~8GHz
ケーブルおよびアンテナアナライザ	5MHz~6GHz
RFパワーメーター	10MHz~8GHz

\*CellAdvisor JD786Bのみ

## 特徴

### 使いやすいユーザーインターフェイス

アナライザは全機能かつ直感的なインターフェイスで統一されており、一般的で使いやすいメニュー構造が特徴です。

内蔵されているヘルプシステムは、あらゆる測定作業の手引きをします。レポート作成用のグラフィックファイルとしてあらゆる機能のスクリーンショットや、後解析用のトレース結果を、機器の内部メモリーや外部USBメモリーデバイスに保存できます。保存したデータはUSBまたはイーサネットポート経由で容易にPCに転送できます。

ユーザーは機器の回転式つまみを使ってファイル名を編集できます。このつまみはまた、英数字を選択する際の便利なEnterキーの働きもします。



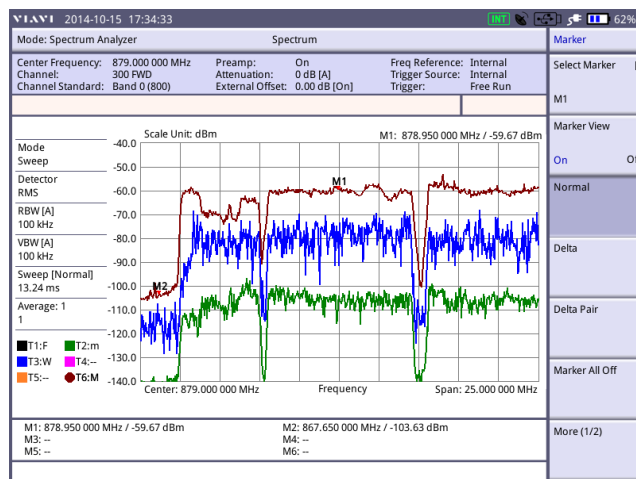
屋外ディスプレイモード搭載で、直射日光下でも容易に画面を読み取れます。

### フィールド測定用途向けデザイン

アナライザはコンパクトかつ軽量であり、フィールドで測定を行うユーザーにとって特に便利です。

明るいマルチモードの8インチカラーディスプレイにより、屋内外の両方で明瞭な表示が得られます。

動作時温度範囲は-10~55℃と広く、頑丈なバンパーにより本体はMIL-PRF-28800Fクラス2規格を超える外部衝撃から保護されます。



屋外ディスプレイモード

### RFoCPRI

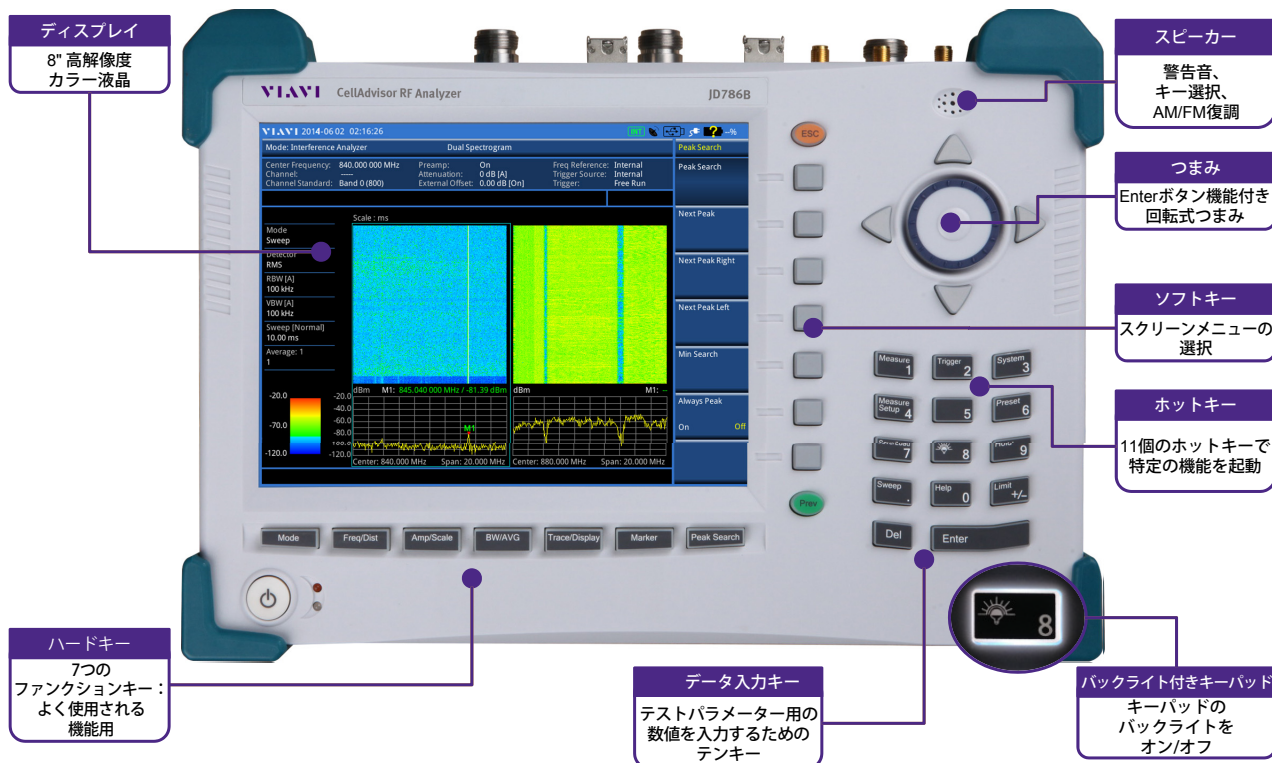
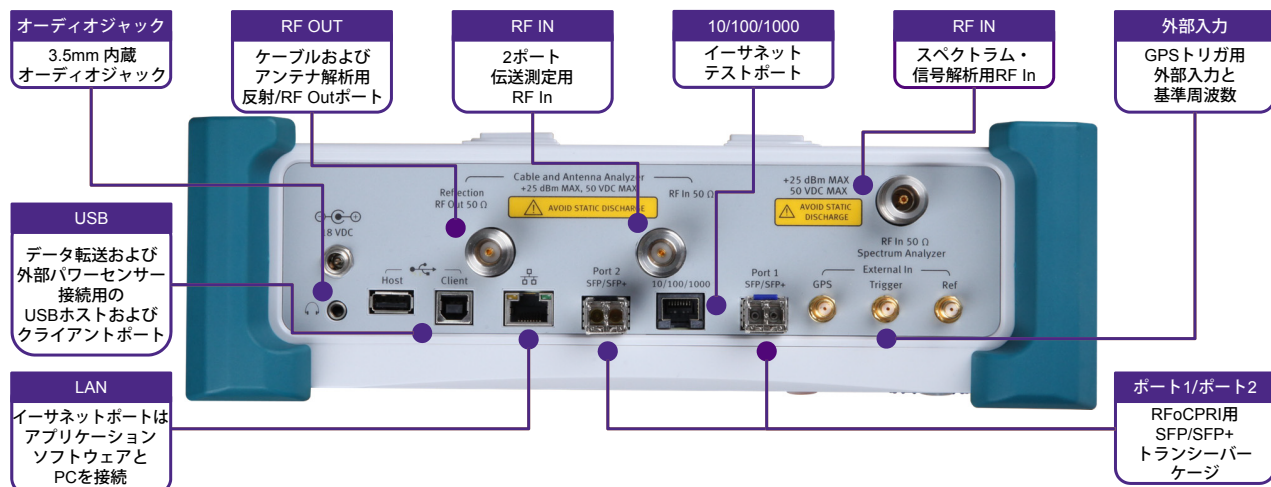
現代の基地局は、同軸ベースのフィーダーをファイバーベースのフィーダーで置き換える分散アーキテクチャを採用しているため、信号損失と反射の問題が大幅に低減されています。しかしながら、あらゆるRFインターフェイスがRRH上にあるため、RFのメンテナンスやトラブルシューティングでは、RRHにアクセスするためにタワー先端まで行かなければならず、これは安全上の問題と運用経費の増大につながります。



Viavi RFoCPRIは危険なタワーへ登る頻度を減らし、技術者が地上から安全にテストできるようにします。

RFoCPRIテクノロジーを利用すると、基地局の技術者はタワーに登ることなく地上からCPRI制御信号を検証し、BBUとRRH間で伝送されたRF (IQ) データを抽出できます。RFoCPRIの主な利点は、CPRIリンクを通してのモバイルターミナル(アップリンク)、PIM検出、無線信号(ダウンリンク)による干渉を監視・解析できることです。

## 機能の統合



<b>スペクトラムアナライザ</b> 100kHz~4GHz (JD746B) 9kHz~8GHz (JD786B) 内蔵プリアンプ  ゼロスパンとゲートスイープ	各種信号の位置検出と特定。  -160dBm/-165dBmまで低い信号を、1dBを以内の測定精度で検出。 WiMAX、GSM、TD-SCDMAなどのパルスまたはバースト信号をトリガー。
<b>ケーブルおよびアンテナ用アナライザ</b> 5MHz~4GHz (JD746B) 5MHz~6GHz (JD786B)	ケーブルおよびアンテナ特性を提供することによる無線からアンテナへの適切なパワー伝送の実現。 障害位置検出による効果的なトラブルシューティングの実現。 ケーブル仕様の適合性検証。
<b>RFパワーメーター</b> 10MHz~4GHz (JD746B) 10MHz~8GHz (JD786B)	RFパワーメーターが内蔵されているため、別途外付けする必要がないうえ、パワーセンサーの有無にかかわらずパワーを測定。
<b>2ポート伝送測定</b> (オプション 001)	フィルターやアンプなど能動デバイスと受動デバイスを検証。
<b>バイアスステイ</b> (オプション 002)	アンプなど能動デバイスに対し最大32VDCの内蔵バイアスを提供。
<b>CWシグナルジェネレーター</b> (オプション 003)	リピーターの切り離しに使用する測定用の正弦波または連続波 (CW) ソースを提供。
<b>RFoCPRI/干渉アナライザ</b> (オプション 008、060~065)	RRHにアクセスするためにタワーに登る必要なくCPRIでRF測定が可能
<b>Bluetoothコネクティビティ</b> (オプション006)	Bluetoothインターフェイス経由のJDRemoteソフトウェアにより遠隔制御および監視機能を提供。
<b>GPSレシーバーおよびアンテナ</b> (オプション 010)	精密測定のために地理的位置と高精度の周波数、時刻を提供。
<b>干渉アナライザ</b> (オプション 011)	干渉信号を適切に監視、特定、位置検出するために必要なスペクトログラムとマルチシグナルRSSIパラメーターを提供。また、信号強度に基づいて可変可聴音の生成も可能。
<b>チャンネルスキャナー</b> (オプション 012)	最大20波までユーザー定義可能な搬送波 (周波数またはチャンネル番号定義) 信号パワーの直感的なグラフ表示により、不適切な電力レベルを迅速に特定可能。
<b>光パワーメーター</b>	光パワーセンサー (MP-60AまたはMP-80A) を通してシングルモードとマルチモードのすべてのコネクタについて光パワーを測定。

## スペクトラムアナライザ

アナライザはRFスペクトラムの監視と解析用に最もフレキシブルな汎用スペクトラム解析テストツールです。スペクトラム解析機能は、以下のワンボタン式規格ベースの無線信号パワー測定を行います。

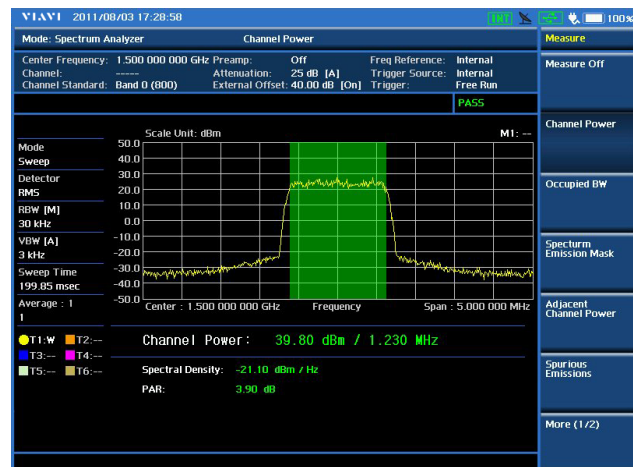
- チャンネル電力
- 占有周波数帯幅
- スペクトラム発射マスク
- 隣接チャンネル電力
- スプリアス発射
- 電界強度
- AM/FMオーディオ復調
- ルートマップ
- PIM検出
- デュアルスペクトラム

## 機能

- 内蔵プリアンプ
- ゼロスパンとゲートスイープ
- AM/FMオーディオ復調
- 種々のディテクタ: ノーマル、RMS、サンプル、ネガティブ、ピーク
- 高度なマーカー: 周波数カウンター、ノイズマーカー
- リミットライン
- 最大6つのマーカーと6つのトレース

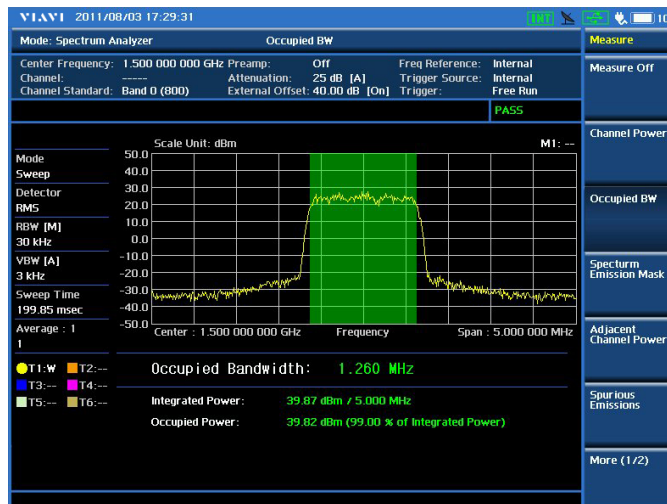
## 測定

チャンネルパワーは、指定したチャンネル帯域幅内の信号の電力レベル、スペクトル密度、ピーク対平均比 (PAR) を測定し、定義されたパワーの合否を示します。



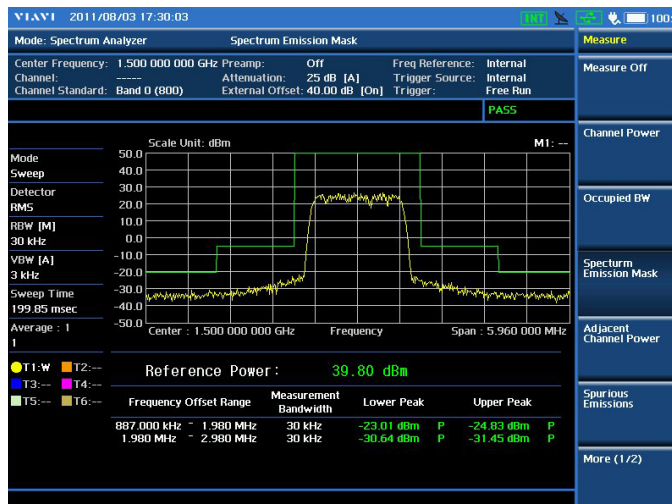
RFテスト - チャンネルパワー

占有帯域幅は、指定電力率、総積算電力、および占有電力からなる周波数帯域幅を測定し、定義された帯域幅の合否結果を示します。



RFテスト - 占有帯域幅

スペクトラム発射マスクは、定義された搬送波帯域幅内の総電力レベルと指定されたオフセット周波数を定義されたマスクと比較して、合否結果を示します。



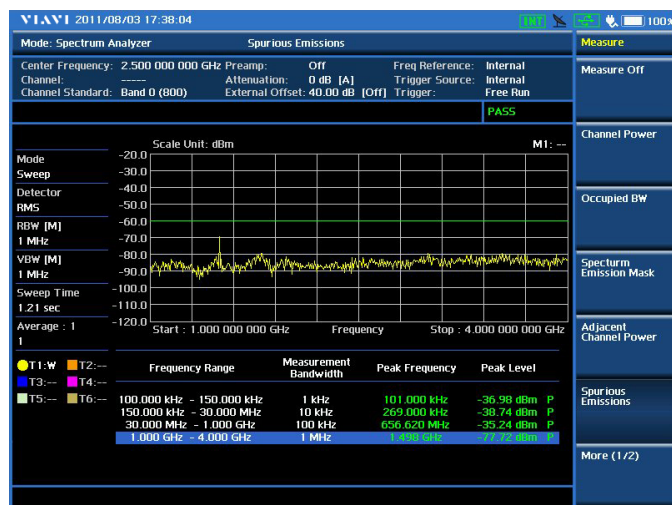
RFテスト - スペクトラム発射マスク

隣接チャンネルパワー (ACP) は、隣接チャンネルへのRFパワー漏れ量とその比率を測定し、定義されたテスト条件の合否結果を示します。



RFテスト - 隣接チャンネルパワー

スプリアス発射は、測定によって、いくつかの周波数帯域内でのスプリアス発射の電力レベルを特定かつ判定し、定義されたマスクに基づく合否結果を示します。



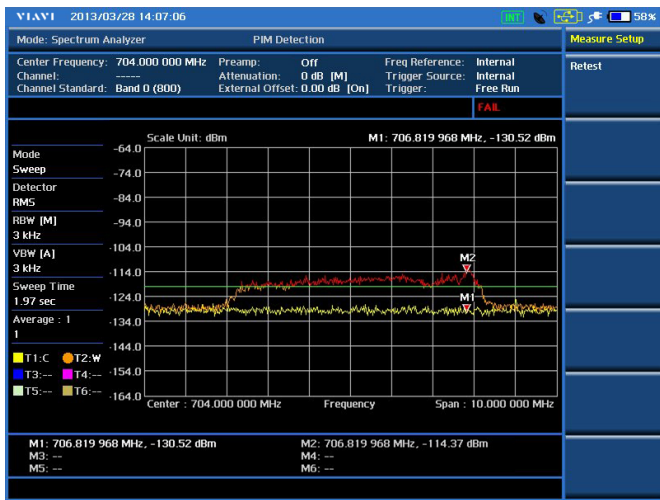
RFテスト - スプリアス発射

電界強度は、ユーザー定義可能なマルチセグメントラインへの電界強度を素早くかつ簡単に測定・解析します。アナライザでアンテナ係数を決定した後は、電界強度の測定は容易になります。

AM/FMオーディオ復調は、干渉信号を特定します。AM/FM信号は、機器の内蔵スピーカーやヘッドセットを通して復調できます。

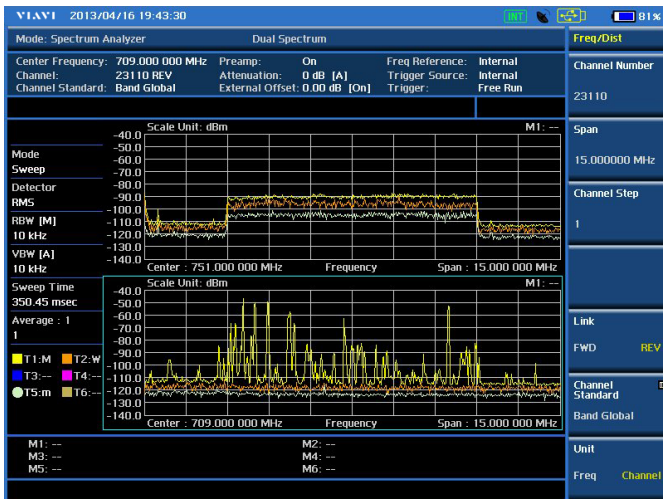
スペクトラムアナライザは、CW信号発生器と並行して作動させることができます。リピーターとアンテナ切り離しの測定に要求される下限100dBのガイドラインを容易に満たすことができます。

PIM検出は、1本の非線型フィードライン上で複数信号が組み合わされて伝送された場合にアップリンク帯域に引き起こされるパッシブ相互変調を特定します。



RFテスト - PIM検出

デュアルスペクトラムは、2つの異なるアップリンク及びダウンリンク帯域のスペクトラムを一つの画面上に同時に表示でき、画面切り替えの必要がなくなります。



RFテスト - デュアルスペクトラム

## ケーブルおよびアンテナアナライザ

このアナライザはケーブルとアンテナの測定をして、基地局のインフラストラクチャ(フィードライン、コネクタ、アンテナ、ケーブル、ジャンパー、アンプ、フィルターなど)を検証します。

### 機能

- 反射
  - 電圧定在波比 (VSWR)
  - リターンロス
- DTF
  - VSWR
  - リターンロス
- ケーブルロス (1ポート)
- ポート位相
- スミスチャート
- 2ポート伝送測定 (オプション 001)
  - スカラー測定
  - ベクトル測定

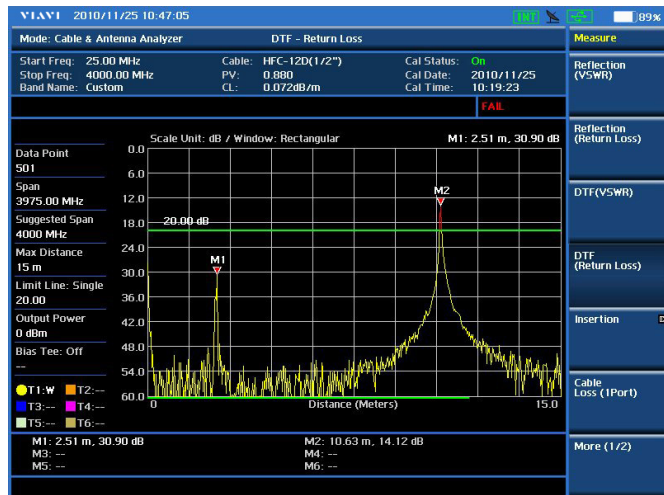
### 測定

反射 - リターンロスは、VSWRまたはリターンロス測定において設定された、周波数範囲全体にまたがる携帯電話基地局伝送路のインピーダンス特性を測定します。



ケーブル・アンテナテスト - 反射

**DTF - リターンロス**は、基地局伝送システムの障害位置を測定し、VSWRまたはリターンロスの信号の途切れを突き止めます。この障害位置検出測定により、損傷または劣化したアンテナ、コネクタ、アンプ、フィルタ、デュプレクサなどの位置をピンポイントで突き止めることができます。



ケーブル・アンテナテスト - 障害位置検出

**スミスチャート**は、RFデバイスを適切に微調整するためのインピーダンスと位相を測定します。スミスチャートはまた、ケーブルとアンテナシステムまたはフィルタやデュプレクサといったデバイスのインピーダンス整合特性も示します。



ケーブル・アンテナテスト - スミスチャート

**ケーブルロス (1ポート)**は、ケーブルの一端を機器につなぎ、他端を短絡して終端させるかオープンのままにすることで、定義された周波数範囲におけるケーブルまたは他のデバイスを介した信号の損失を測定します。



ケーブル・アンテナテスト - ケーブルロス

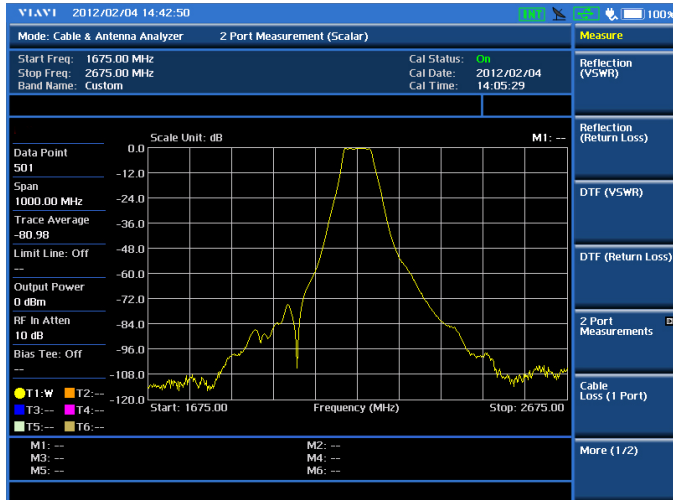
**1ポート位相**は、 $S_{11}$ 位相を測定して、アンテナおよび位相整合ケーブルをチューニングします。



ケーブル・アンテナテスト - 1ポート位相



2ポート測定(スカラー) (オプション001) には、ベクトル測定とスカラー測定があります。スカラー測定はより大きいダイナミックレンジ(>100dB)を特徴とし、ベクトル測定はより大きい精度と短いテスト時間を特徴とします。



ケーブル・アンテナテスト - 2ポート測定

インサージョンゲイン/ロス、フィルター、ジャンパー、スプリッタ、アンプなど受動と能動デバイスの特性を測定し、アンテナまたはセクター間の切り離しを検証します。

ベクトル測定での2ポート位相は、 $S_{21}$ 位相を測定してフィルターやアンプなどの伝送デバイスの特性を示します。

オプションの内蔵バイアスティは、機器のRF入力ポートを通して能動デバイスに電源を供給します。これにより、別途外部電源装置を準備する必要がなくなります。

## パワーメーター

アナライザはRFパワーメーターと光パワーメーターを装備しています。

RFパワーメーターは2つの異なる方法でパワーを測定します。1つは外部パワーセンサーなしでの標準パワーテスト用内部パワー測定となります。もう一つは高精度のパワー測定のため外部パワーセンサーに接続しての測定となります。

光パワーメーターは、外部光パワーセンサーを通してシングルモードとマルチモードコネクタの光パワーを測定します。

### RFパワーメーター (標準仕様)

#### 内部パワー測定

- 周波数レンジ: 10MHz~4GHz/8GHz
- ダイナミックレンジ: -120~+20dBm/+25dBm
- 測定の種類: RMSまたはピーク

#### 外部パワー測定

- JD732B: 終端パワーセンサー (平均)
- JD734B: 終端パワーセンサー (ピーク)
- JD736B: 終端パワーセンサー (平均とピーク)
  - 周波数レンジ: 20MHz~3.8GHz
  - ダイナミックレンジ: -30~+20dBm
- JD731B: 方向性(ライン経由)パワーセンサー
  - 周波数レンジ: 300MHz~3.8GHz
  - ダイナミックレンジ: 平均0.15から150W、ピーク4~400W
  - 測定:
    - ・ 順方向平均パワー
    - ・ 逆方向平均パワー
    - ・ 順方向ピークパワー
    - ・ VSWR
- JD733A: 方向性(ライン経由)パワーセンサー
  - 周波数レンジ: 150MHz~3.5GHz
  - ダイナミックレンジ: 平均/ピーク0.1~50W
  - 測定:
    - ・ 順方向平均パワー
    - ・ 逆方向平均パワー
    - ・ 順方向ピークパワー
    - ・ VSWR

## 光パワーメーター

### ミニチュアUSB 2.0光パワーセンサー

- MP-60A
  - 波長レンジ: 780~1650nm
  - ダイナミックレンジ: 1300, 1310, 1490, 1550nm: -50~+10dBm  
850nm: -45~+10dBm
- MP-80A
  - 波長レンジ: 780~1650nm
  - ダイナミックレンジ: 1300, 1550nm: -35~+23dBm,  
850m: -30~+23dBm



終端  
RFパワーセンサー

方向性  
RFパワーセンサー

光パワーセンサー

パワーメーター解析は、ユーザー定義可能な合否判定値があり、テスト結果をdBmとW単位で表示します。パワー測定は、dBm表示の絶対値とdB表示の相対値測定に設定できます。

アナライザは、アナログメーターによるリアルタイム値表示と、ヒストグラム図による通し時間での電力レベル傾向表示の2つの形式で電力レベルを表示します。



パワーメーターテスト (RFまたは光)

\*CellAdvisor JD786Bのみ

JD730シリーズ高精度RFパワーセンサーはUSB接続を用いてアナライザに接続され、RFパワーを測定します。

このアナライザは終端/パワーセンサー (JD732B、JD734B、JD736B) を制御し、実運用停止中のアプリケーション用に測定レンジ-30~+20dBm、3.8GHzまで、の非常に正確なRFパワーメーターとして機能します。

このアナライザは方向性/パワーセンサー (JD731BとJD733A) を制御し、稼働中システムの出力パワーとインピーダンス整合を測定します。これらのパワーセンサーは150Wまでのパワーを測定できるため、減衰器が不要になります。

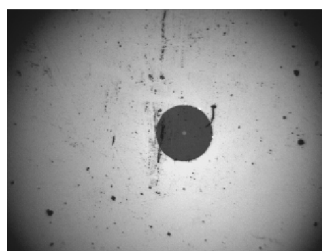
このアナライザは光パワーセンサー (MPシリーズ) を制御して、シングルモードとマルチモードで光パワーを素早く容易に測定できます。

この光パワーメーターはファイバー検査用に上手くまとめられたソリューションとして使用できます。

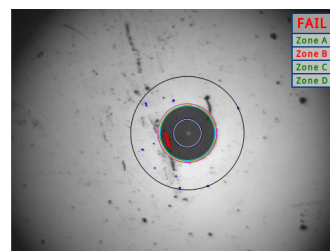
**ファイバー検査\***は、コネクタが汚れていないことを確認することによってファイバーリンクでよくある問題を解決します。ファイバー接続の品質とクリーンさを迅速かつ容易にトラブルシューティングして保証できるのは、JD786Bだけです。オプションのP5000iファイバーマイクロスコップを接続することによって、合否ステータスが確実に表示されるため、ファイバー接続を素早く点検して、クリーンにすることができます。P5000iマイクロスコップを接続したPCまたはノートPC上で無償のFiberChekPRO™アプリケーションを使用することにより、RF検査用に本機、ファイバー点検用にPCまたはノートPCを利用し、並行して同じファイバー解析を実施できます。また、任意のファイバーコネクタを検査、テスト、保証して、包括的な合否サマリーレポートを即座に作成できます。



P5000i マイクロスコップ



ファイバー合格



ファイバー不合格

## 干渉アナライザ

干渉アナライザ(オプション 011)機能は、周期的または断続的なRF干渉の位置検出と特定に非常に効果的です。干渉信号はいくつかの種類の認可または無認可送信機から発生し、通話が落ちてしまうことやサービス品質低下の原因になります。

- スペクトラムアナライザ
  - サウンドインジケータ
  - AM/FMオーディオ復調
  - 干渉ID
  - スペクトラムレコーダー
- スペクトログラム
- 受信信号強度インジケータ (RSSI)
- 干渉ファインダー
- スペクトラムリプレイヤ
- デュアルスペクトログラム

### 測定

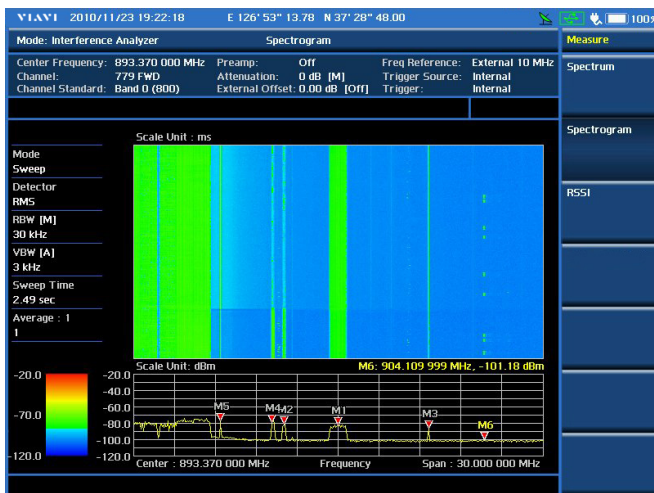
スペクトラムアナライザは、受信信号が定義されたパワー基準を超えた場合のイベントのみを捕捉することで、スペクトラムクリアンスを実行できます。

警告音の音量は信号強度に比例します。さらに便利なことに、内蔵AM/FMオーディオ復調器でAM/FM信号を判別します。

干渉IDは自動的に干渉信号を分類し、選択された信号に対応する信号タイプ候補を一覧表示します。

スペクトログラムはスペクトラムの動作を経時的に取り込み、色を変えることでスペクトラムの電力レベルを表示します。

スペクトログラムは周期的または断続的な信号の識別に効果的です。各測定に対し、タイムカーソルを使用して経時的に処理後の解析を行うことができます。



干渉分析テスト - スペクトログラム

RSSIはマルチシグナルトラッキング指標で、経時的な電力レベルの変動の測定に特に便利です。

RSSI測定では、アラーム用の電力判定ラインを割り当て、受信信号が定義した下限ラインを下回るたびにアラームカウンターにてイベントをカウントすることができます。

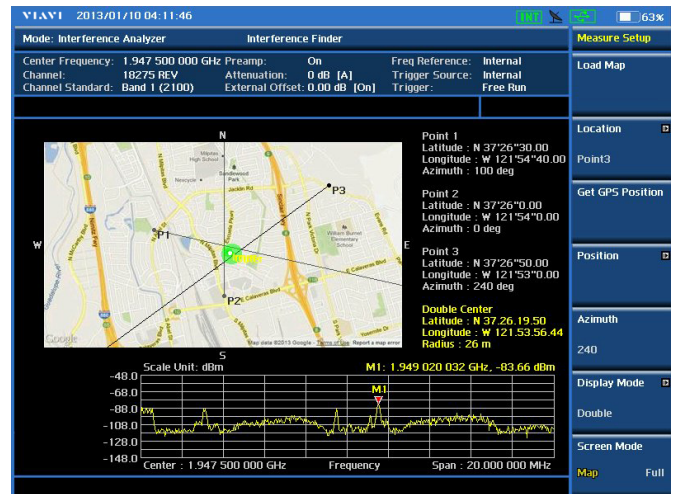
長期解析には、スペクトログラムとRSSI測定値を外部USBメモリーに自動的に保存できます。後解析はJDViewerアプリケーションソフトウェアで実行できます。



干渉解析テスト - RSSI

干渉ファインダーは、GPS座標を使って干渉の発生源の位置を検出する自動的な三角測量アルゴリズムです。

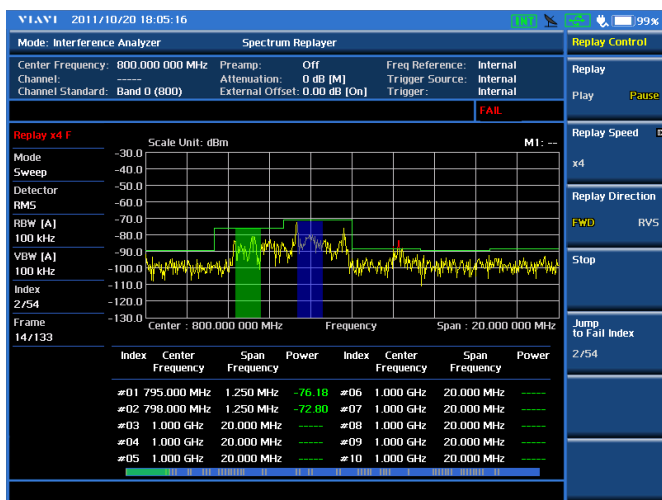
干渉ファインダーは、測定された交差点に基づき内接円または外接円を使用して干渉位置の候補を求めます。



干渉解析テスト - 干渉ファインダー

スペクトラムリプレイヤを使用すると、記録されているスペクトラムアナライザのトレースを干渉解析モードで検索してリプレイできます。これらのトレースはスペクトログラムまたはRSSIでプレイバックできます。

判定ラインを設定して、信号がそのラインを超えた場合に障害点を生成できます。障害点はプレイバック時に素早くアクセスできるようにトレースタイムラインに明瞭に表示されます。



干渉解析テスト - スペクトラムリプレイヤ

デュアルスペクトログラムは2つの異なる帯域のスペクトル動作を経時的に取り込むことで、周期的または断続的な帯域内の信号を識別します。



干渉解析テスト - デュアルスペクトログラム

## RFoCPRI

アナライザはCPRI上のRFを測定してREC (BBU)とRE (RRH)間のCPRIリンクの状態を監視することで、RECをエミュレートし、ファイバーを通して地上でRRHケーブルリングと運用状態を検証できます。

### 機能

- レイヤー2 モニタリング
- レイヤー2 ターム
- 干渉アナライザ
  - スペクトラムアナライザ
    - サウンドインジケータ
    - AM/FMオーディオ復調
    - 干渉ID
    - スペクトラムレコーダー
  - スペクトログラム
  - RSSI
  - スペクトラムリプレイヤ
- PIM検出
  - 単一无線
  - 複数無線

### 測定

レイヤー2 モニタリングはサービス中の測定であり、レイヤー2 L1インバンドプロトコルで提供されるレイヤー1リンクメンテナンスアラームと受信する光パワーの監視ができます。



RFoCPRI - レイヤー2 モニタリング

レイヤー2 タームはサービス停止中の測定であり、この測定でも、レイヤー2 Liインバンドプロトコルで提供されるレイヤー1リンクメンテナンスアラームと受信する光パワーの監視ができます。この機能のもう一つの利点は、ベースバンドユニットをエミュレートし、RRHの起動プロセスをサポートすることで、ユーザーが光ケーブルと適切なRRH動作を地上から検証できることです。

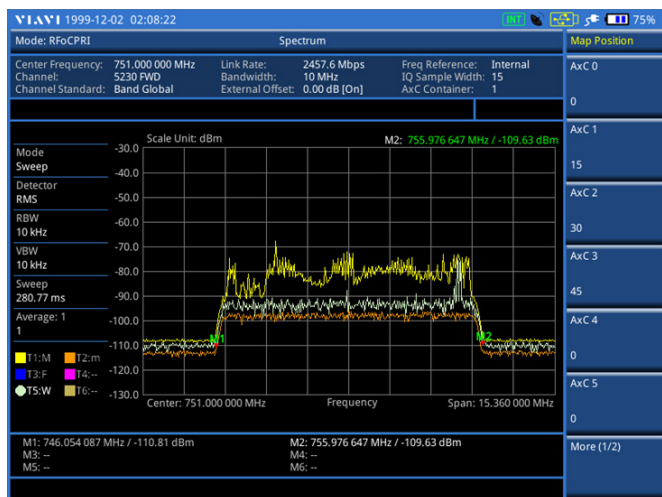


RFoCPRI — レイヤー2ターム

### 干渉アナライザ

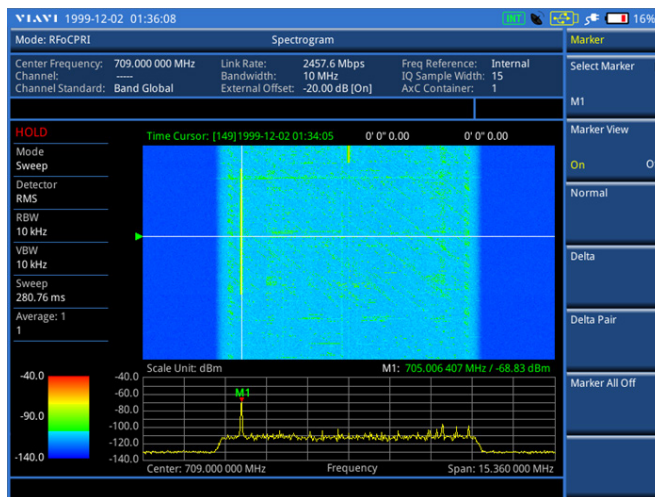
干渉アナライザはCPRIリンクからI/Qデータを取り込んで、アップリンクとダウンリンクのスペクトラムを表示します。RFoCPRIを使用すると、アップリンク帯域にある干渉信号の位置を検出して特定するためにタワーに登る必要がありません。

スペクトラムアナライザを使用すると、ユーザーはアップリンクとダウンリンクのスペクトラムを表示、記録し、後で詳しく解析することができます。アップリンク信号がダウンリンクから完全に切り離されるため、TDDシステムの干渉をより効果的に観察することが可能になります。



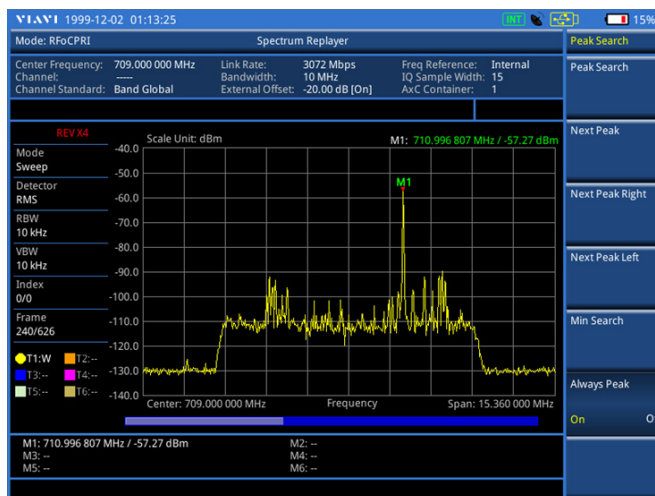
RFoCPRI — スペクトラムアナライザ

スペクトログラムはスペクトラムを取り込んでウォータフォールダイアグラムとして表示し、信号干渉を素早く簡単に識別できるようにします。タイムカーソルとマーカーにより、断続的な干渉信号の時間と周波数を追跡記録できます。



RFoCPRI — スペクトログラム

スペクトラムリプレイヤを使用すると、ユーザーはCPRIリンク上で得られたベースバンドスペクトラムの記録をリプレイして、調査対象の干渉信号の性質をよりよく理解できます。



RFoCPRI — スペクトラムリプレイヤ

**PIM検出**を使用すると、無線システムのアップリンク上のPIMを検出できます。PIMの検出は、同一RF/同軸アンテナシステムを共有する無線の数に基づいて異なる方法で達成できます。広帯域を占有する単一の無線あるいは異なる周波数を持つ複数の無線によって生成されたPIMを容易にチェックできます。



RfCPRI — PIMの検出 - 単一无線

## チャンネルスキャナー

チャンネルスキャナー機能(オプション012)は、どのチャンネルまたは周波数のどの携帯電話テクノロジーについても独立したチャンネルを最大20まで測定できます。また、各信号タイプの電力レベルも表示します。



チャンネルスキャナー

## StrataSync\*

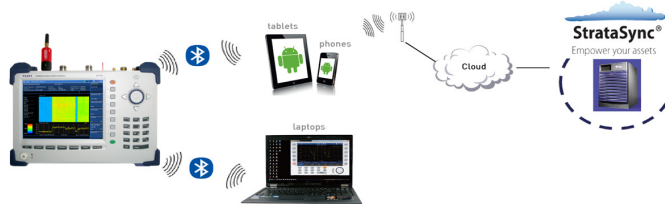
CellAdvisor JD780AシリーズのアナライザはViaviクラウドベースのStrataSync™ソリューションに対応しており、機器の在庫管理のほか、個別機器の所在やそれらの機器を使用するエンジニアが特定できます。StrataSyncはまた、リモートアップグレードによって機器を最新の状態に維持する働きもします。すべての機器のファームウェアを最新の状態に維持できます。StrataSyncはまた構成設定や配信を一元化するため、測定時機器設定の差異によって測定間の整合性が損なわれることはありません。テストの終了後は、測定結果をStrataSyncにアップロードしてセキュアに保管、共有できます。問題が解決できない場合はエキスパートエンジニアと測定結果を共有することで、本機の近くにエキスパートがいなくても、どこからでも解析の支援を受けることができます。

- 資産在庫の管理
- 機器アップグレードのリモート配布
- コンフィグレーション共有の一元化
- テストデータ管理の提供
  - トレースファイル
  - スクリーンショット
  - リモート解析



## Bluetooth接続

Bluetooth接続(オプション006)は、タワーの上に収容された機器による長距離テストを、Bluetoothを介して安全かつ簡単にリモート・コントロールできる手段を提供します。テストは地上から実行できるので便利です。ファイル転送機能を使用して、本機からファイルを転送することもできます。データサービス接続で本機をAndroidスマートフォンまたはタブレットにつなげば、StrataSyncとの間でデータのアップロード、ダウンロードもできます。



Bluetooth接続

\*CellAdvisor JD786Bのみ

## GPSレシーバーとアンテナ

GPSレシーバー (オプション010) は、非常に正確な周波数測定用の位置 (緯度、経度、高度) とタイミングを提供し、独立して基地局のタイミングを検証します。

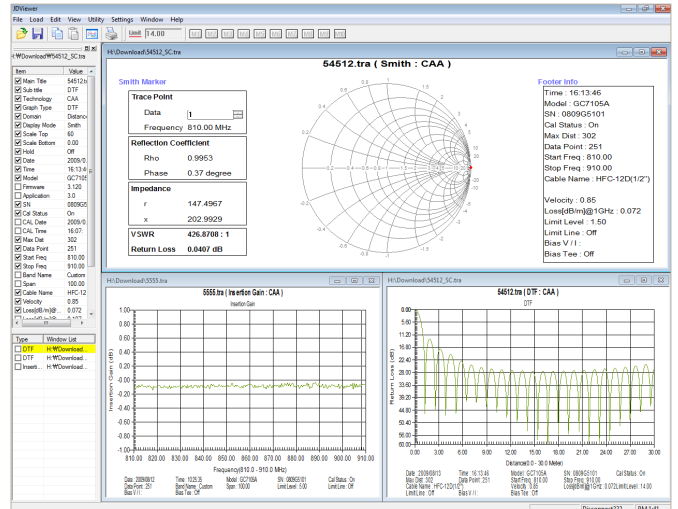


GPSアンテナ付きアナライザ

## アプリケーションソフトウェア

### JDViewerの特徴

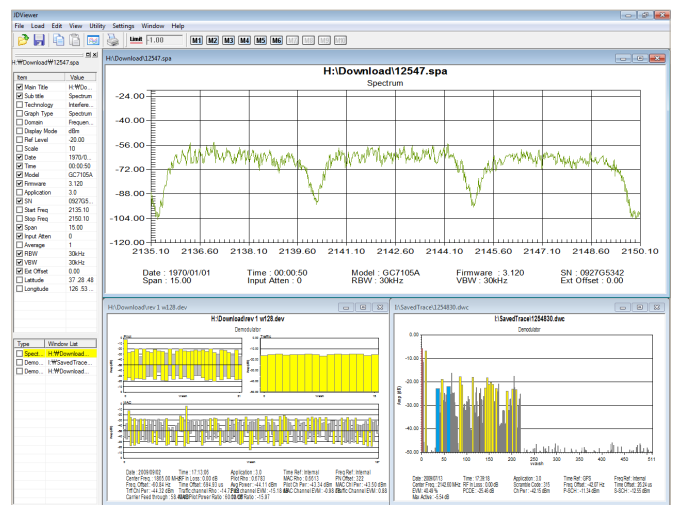
- LANまたはUSB経由でアナライザと通信
- 測定値または保存されている測定値を取得
- 測定結果のエクスポート
- 設定可能なレポートの作成と印刷
- 複数スペクトログラムトレース入りの複合ファイルを作成
- 複数のマーカーと判定ラインによる測定結果解析
- チャンネルパワー、占有帯域幅、SEM、ACLRのユーザー定義設定を作成
- ユーザー定義可能なケーブルタイプと周波数帯域の登録と編集
- GSM、CDMA/EV-DO、WCDMA/HSPA+、Mobile WiMAX、LTE用の自動テストシナリオを作成
- GSM、CDMA/EV-DO、WCDMA/HSPA+、Mobile WiMAX、LTEの信号強度マップおよび無線信号解析マップを作成



JDViewer VSWR, DTF, スミスチャート



JDViewer OTAマッピング



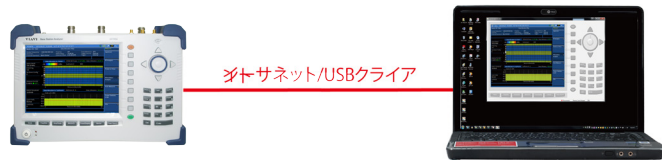
JDViewerスペクトラム、復調

## JDRemote機能

この機能はソフトウェアクライアントを通じて機器の完全な遠隔制御を可能にします。制御は直接接続USB、ネットワークLAN接続、またはBluetoothの方法でも可能です。

アナライザはWindowsベースの次の2つのアプリケーションと通信します。

- JDViewer — 後処理、レポート生成、設定のパーソナライズ、およびカバレッジマップの作成
- JDRemote — 完全な遠隔制御



アナライザとJDRemote



〒163-1107  
東京都新宿区西新宿6-22-1  
新宿スクエアタワー7F

電話: 03-5339-6886  
ファックス: 03-5339-6889  
Email: support.japan@viavisolutions.com

© 2016 Viavi Solutions Inc.  
この文書に記載されている製品仕様および内容は  
予告なく変更されることがあります  
jd746b-jd786bccladadvisor-br-cpo-nse-ja  
30179752 901 0316